

アウトリーチを中心とした 石巻圏での精神保健活動の現状と課題

(一社) 震災こころのケア・ネットワークみやぎ代表理事
原クリニック院長
原 敬造

演題発表に関連し、開示すべきCOI
関係にある企業などはありません。

からこ ステーション

近づかない
注意

自動

近づかない
注意

自動

からころステーション



からころステーション開所まで

- 2011.3.25～2011.7.31 仙台市心のケアチーム(災害救助法)
- 2011.4.1～2011.10.31 石巻市心のケアチーム(災害救助法)
- 2011.6(一社)震災こころのケア・ネットワークみやぎ設立
- 2011.10 からころステーション(からだところの相談所)開所

支援活動で重視したこと

- 自力で活動できる体制の構築

被災地では、活動を準備してあげなければという負担感がある

- “やりがい”を求められると、被災地には何もしてあげられなかったという負い目が残る

- とにかくにも側にいることの重要性、安心感

- 力を抜いた、自力でやれる支援

- 生活支援に重きを置く

- 健康状況を把握、必要とされているニーズを探る

- 寄り添うこと

- 当座のニーズがないことは良いこと

- 持続することによりより良い関係性を築く

震災こころのケア・ネットワークみやぎを設立

被災地・石巻市周辺のこころのケアを中心とした精神保健活動を行う

継続的組織的活動を目指して（設立：2011年6月26日）

①アウトリーチ型支援

②ニーズにそくした包括的支援

③柔軟かつ迅速な支援

④震災経験を次世代に活かすための取り組み

1. 石巻市 こころのサポート拠点事業

2. 宮城県 アウトリーチ推進事業（震災対応版）

対象地域 石巻市・東松島市・女川町

拠点：「からころステーション（からだこころの相談所）」
オープン（2011年10月）

職員体制

- 日本精神神経科診療所協会会員医師及び専門職員

（2018年末現在 医師3,733名 コワーカースタッフ2,834名派遣）

- 常勤職員23名 非常勤職員1名

（看護師4名 精神保健福祉士11名 臨床心理士3名 作業療法士1名 他4名）

活動内容（365日開所）

①相談業務（個別的アプローチ）

- ・ 訪問相談（アウトリーチ）

自治体保健師と協働し、困難ケースへの訪問

仮設住宅・復興住宅生活者健康調査結果にもとづく、フォローアップ訪問

- ・ 来所・電話相談

フリーダイヤル相談電話を設置し、被災地域住民が気軽に相談できる体制

活動内容

②サロン・集団活動(集団的アプローチ)

- おじころ(独居男性の孤立防止を目的としたサロン活動)
- からころカフェ(出張型相談会)
- K-CARP(ハイリスク飲酒者向け勉強会(節酒プログラム))
- KARANO(ひきこもり傾向にある対象者向けのスポーツプログラム)

活動内容

③教育研修・支援ネットワークづくり

- スキルアップセミナー

(メンタルヘルスに関する精神科医師による講演会)

- 石巻市こころのケアミーティング
- 石巻アルコール問題研究会

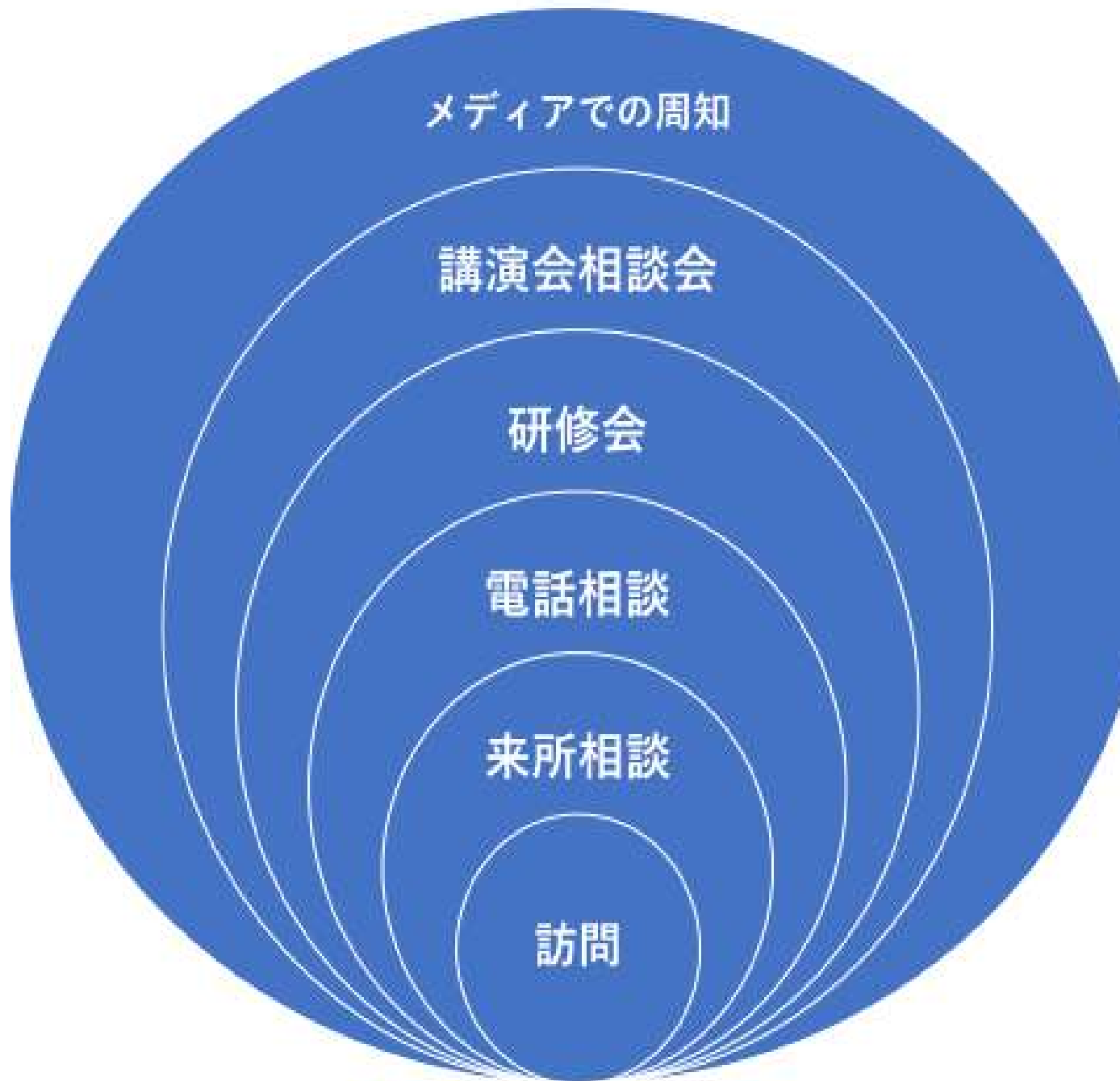
(地域の内科医と精神科医の連携強化を目的とした事例検討会)

我々のチームの特徴

- アウトリーチを中心とした
- 柔軟かつスピーディーな
- 地域により近い、丁寧な
- 継続的な

活動内容

- 1.アウトリーチ支援
- 2.仮設住宅等での健康相談会（からころカフェ）
- 3.こころの相談ダイヤル
- 4.からころステーションでの相談
- 5.講演会
- 6.啓発活動
- 7.研修会
- 8.資源の開発と開拓 など



一般社団法人震災こころのケア・ネットワークみやぎ（からころステーション） 実施事業内容ごとの対象者と相談支援の方法について

新規
相談

来
所
電
話

予約ない場合もあり、まずは相談につながることを重視した「断らない支援」を実践

依
頼

市町村や県、
家族等から



事業内容

石巻市心のサポート 拠点事業

2011.9月から委託事業として開始。
石巻市民の心のケアに関わる相談を幅広く受け付ける。

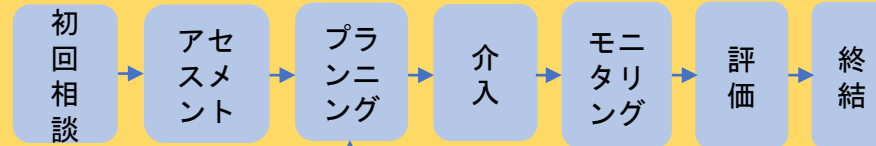
宮城県アウトリーチ 推進事業 （震災対応型）

2011年11月から委託事業として開始。石巻市・東松島市・女川町民の被災者等を対象としてこころのケアに関わる相談を受け付ける。
石巻市民については、重度かつ継続的な場合（ハイリスクケース）や県保健所からの依頼があった場合を対象としている。

指定・特定障害者 相談支援事業所

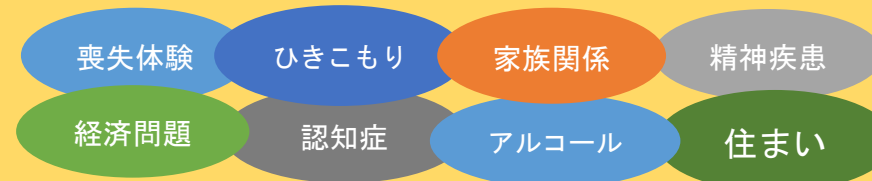
2019年7月から事業開始。障害者手帳所持者を対象とし、福祉サービスの計画相談を行う。

○ケアマネジメントの流れ



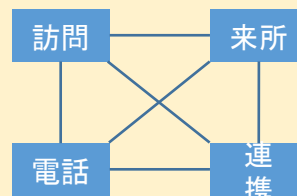
当機関では、ケアマネジメントを採用している。初回相談後にアセスメントを実施し、対象となる事業を選定し、相談支援を行う。

○災害の影響によって心身や生活に発生する様々な課題



○支援方法

個別支援



集団的アプローチ

おじころ（独居男性）

K-CARP（アルコール問題）

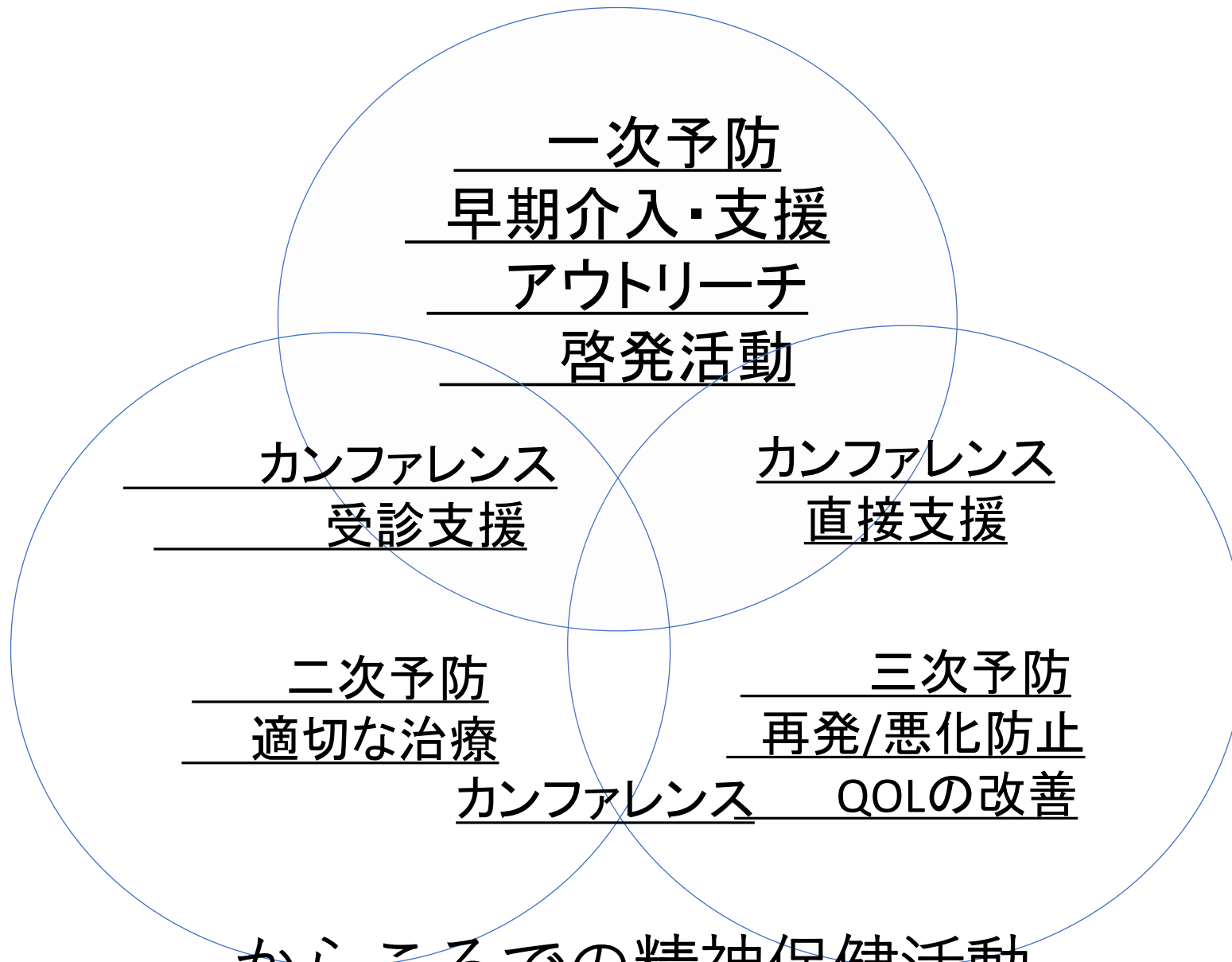
KARANO（ひきこもり）

等



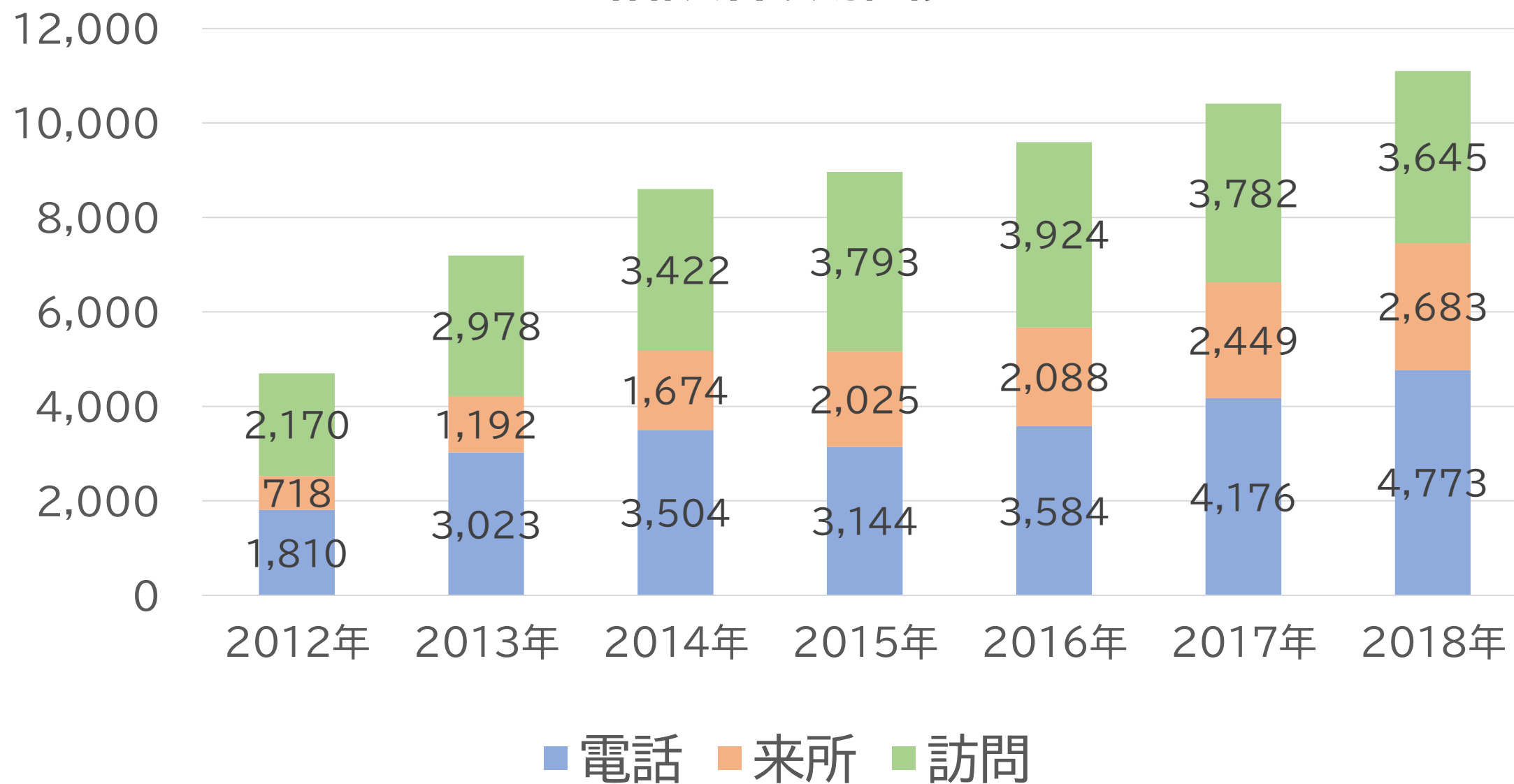
○重度かつ継続（ハイリスクケース）とは・・・いわゆる自傷他害の危険性が高い場合や、身体的な問題が大きい場合、関係機関との密な情報共有が必要な場合であり、精神科医を伴って相談を受ける必要がある。



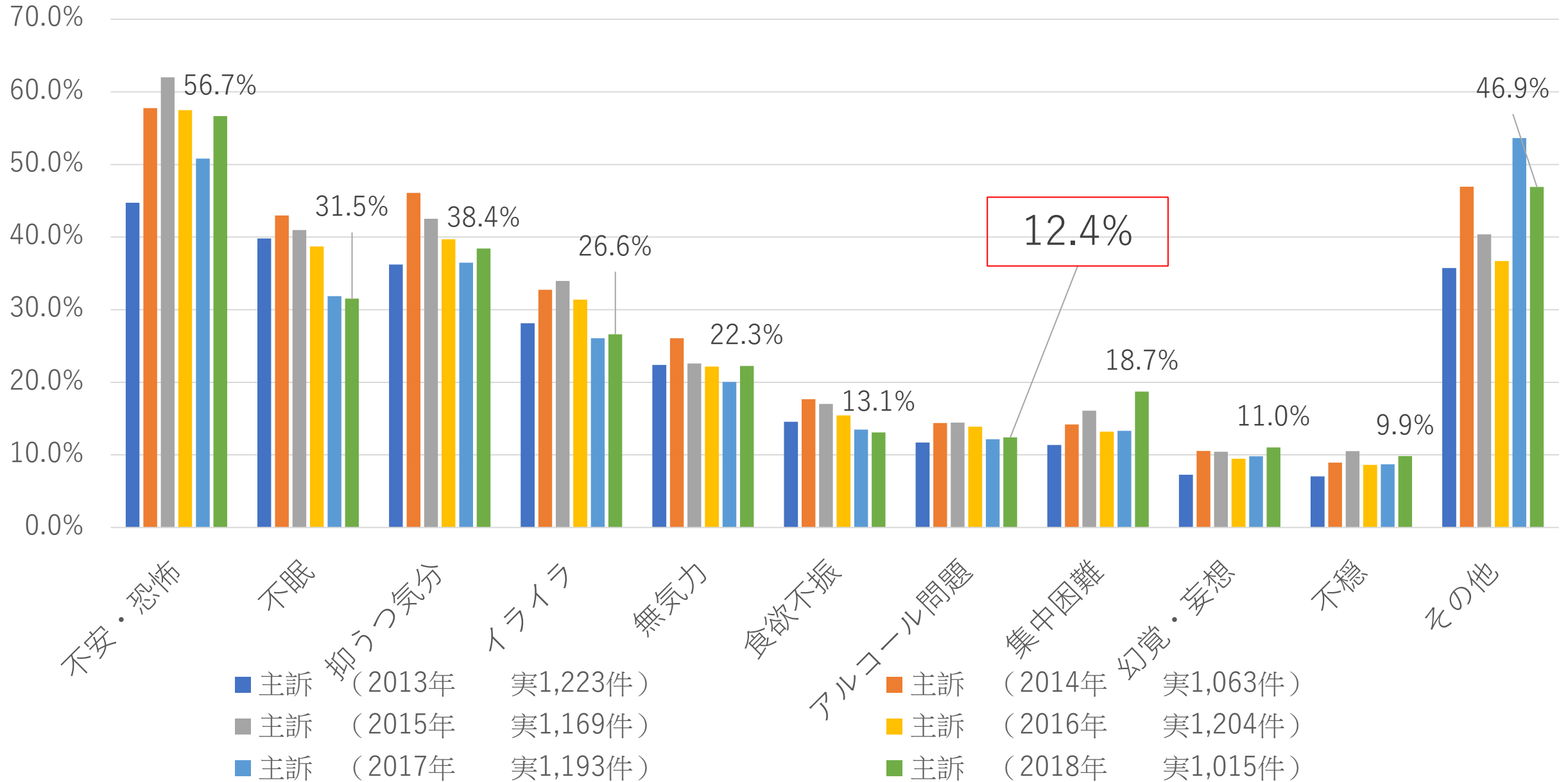


からころでの精神保健活動
一次予防と三次予防を中心にして展開

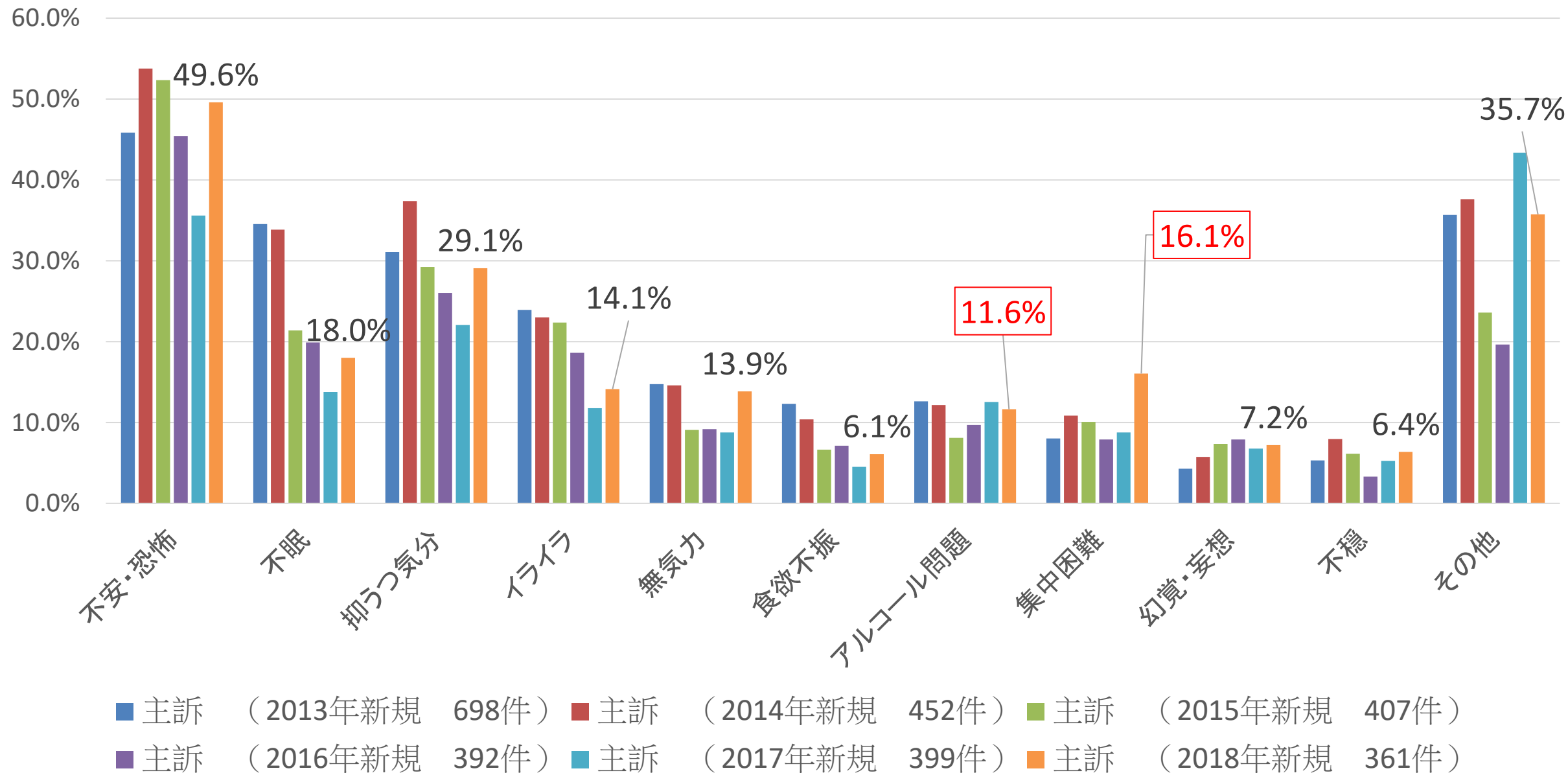
相談件数推移



年度比較 実数

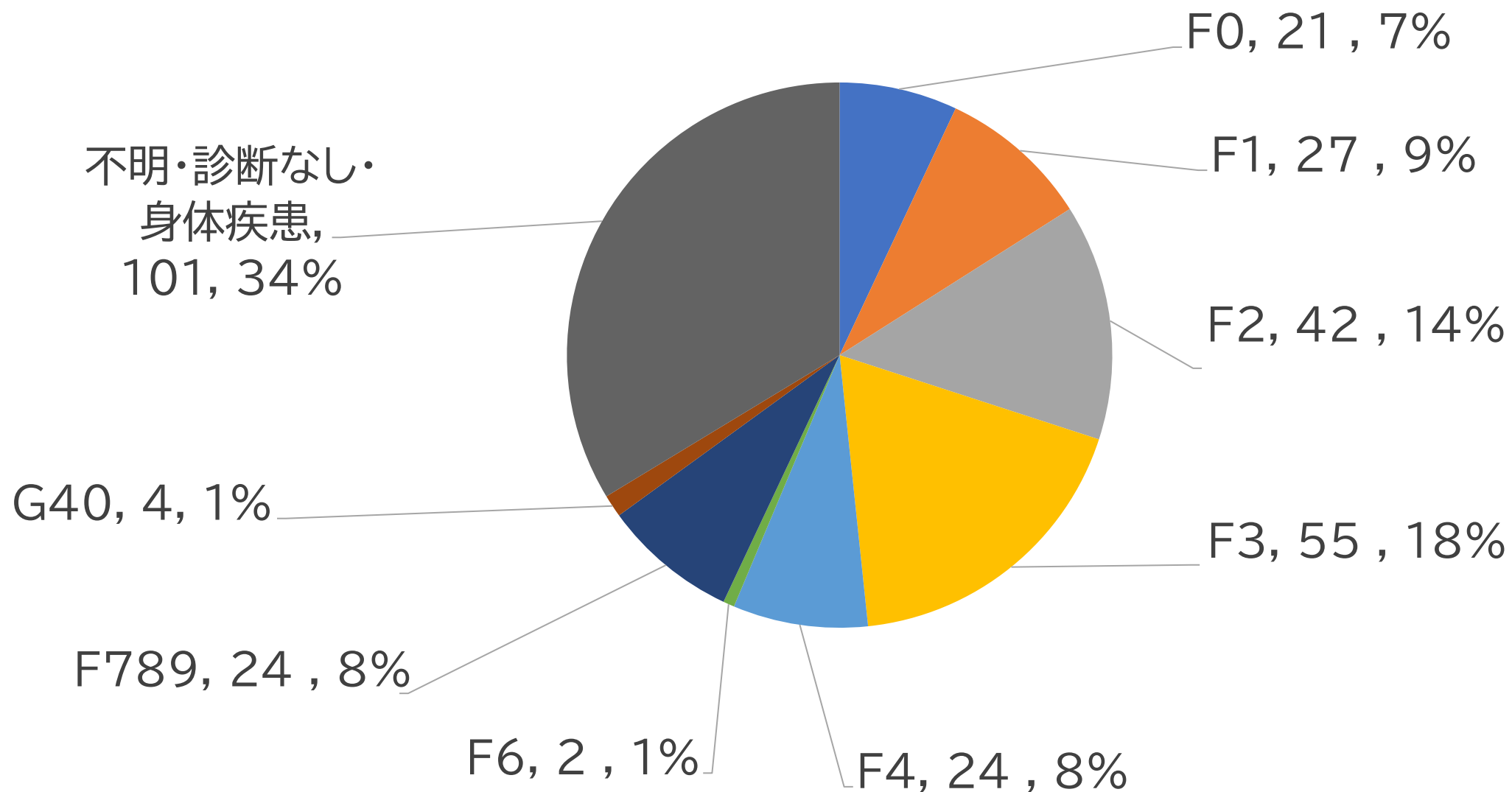


年度比較 新規



頻回訪問支援ケース疾病分類(N=300)

※20回以上訪問



被災地のアルコール問題

被災者の状況として…

- 壮絶な被災体験によるストレス
- 家族・住居・仕事・コミュニティー・人間関係等
さまざまな喪失
- 急激な環境の変化、孤独化

問題飲酒や多量飲酒等の状態に…

ケースの特徴とかかわり

- 震災を契機として生じたアルコール問題
(飲酒量増大・日中飲酒等)
⇒ 適正飲酒指導、他のストレス対処の検討
医療機関の受診(不眠等)等。
- 元来アルコール問題があり、震災後悪化・顕在化
⇒ 専門の医療機関・相談機関・
自助グループにつなげる。継続的なフォロー。



つながらない！続かない！

なんとかならないか！！

- 地域ベースでの支援の方法の模索
おじころ、K-CARPの試み → 地域支援
- 内科医等との連携 → 連携の模索
- アル・コルかるたの作成 → 啓発活動

オジころ 趣 旨

- 男性独居の方を対象とした集いの場の提供
- 生活スキルアップ(調理等)
- 地域エリアを超えた仲間作りコミュニティー形成の手伝い
- アルコール問題がある方はからころミーティング(AA)・K-CARPにつなげられるようにしていく

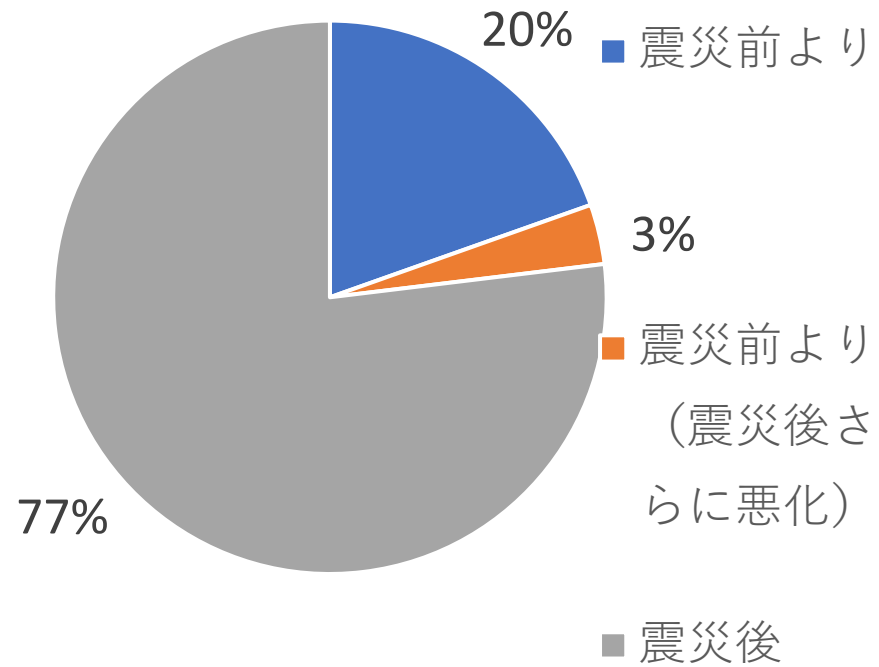
K-CARPを始めたきっかけ



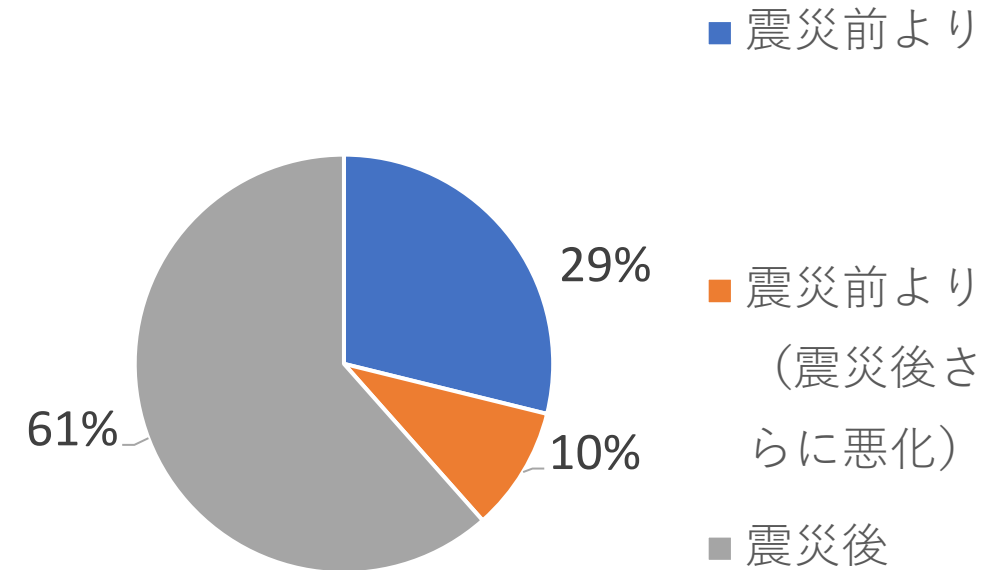
からころ全ケース	4,671				
若年者	3,111	66.6%			
高齢者	1,560	33.4%			
アルコールケース	予備軍	依存症と診断	合計	依存症と診断	アルコール問題
若年者	161	143	304	4.6	9.8
高齢者	65	52	117	3.3	7.5
			421		9.0

アルコール関連問題発症時期

若年者 発症時期 N = 143

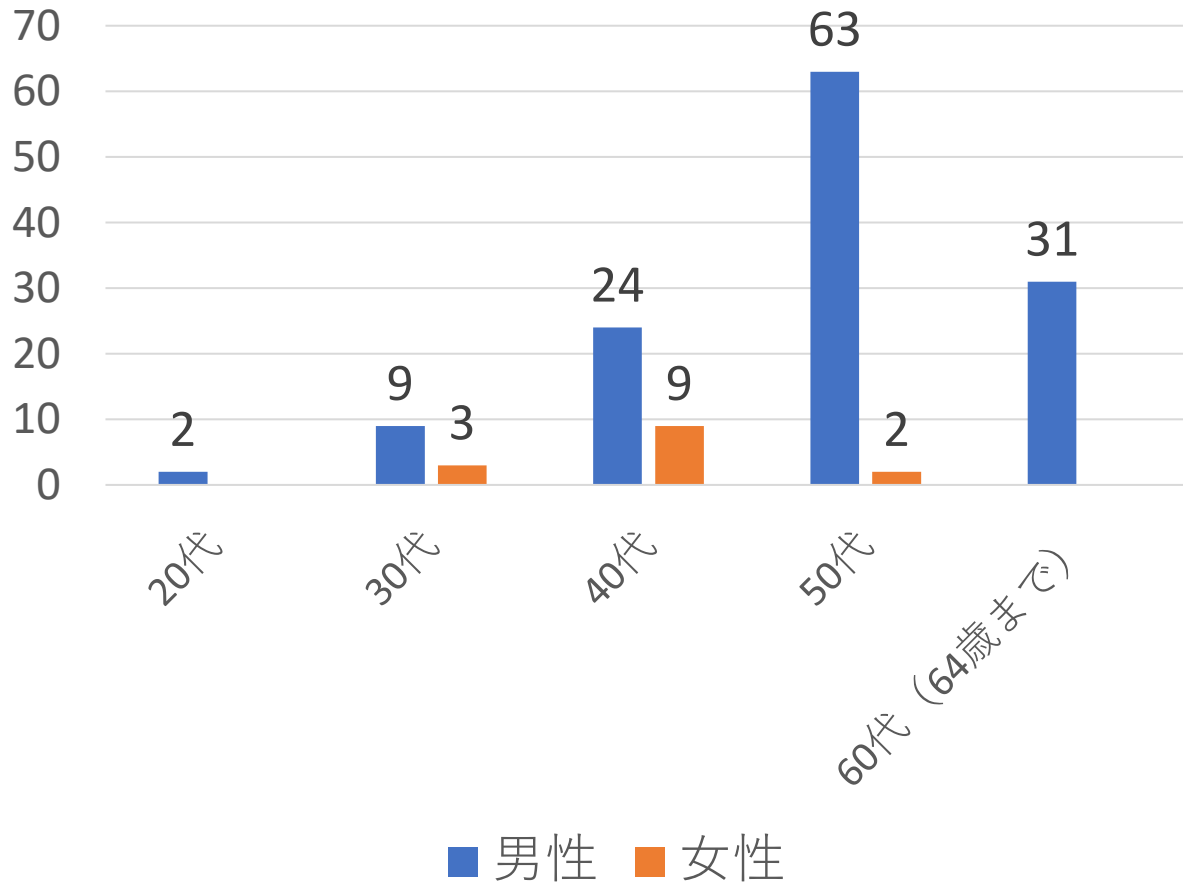


高齢者発症時期 N=52

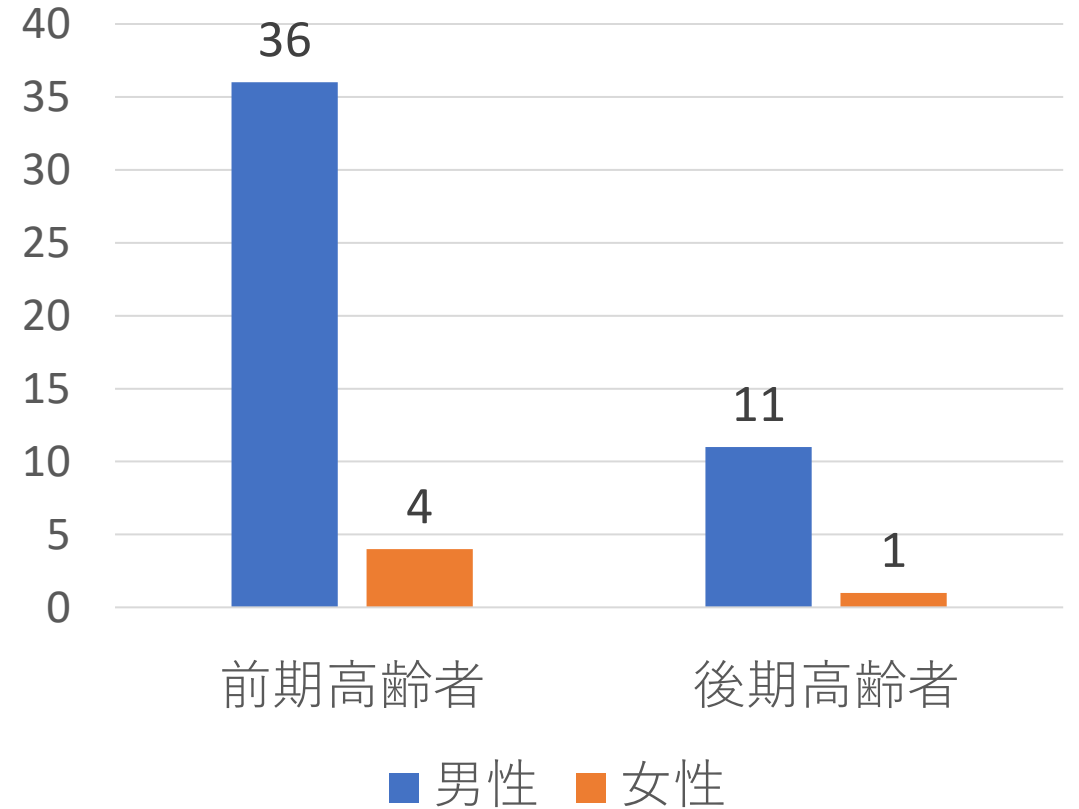


年齢と性別

若年者 年代×性別 N = 143

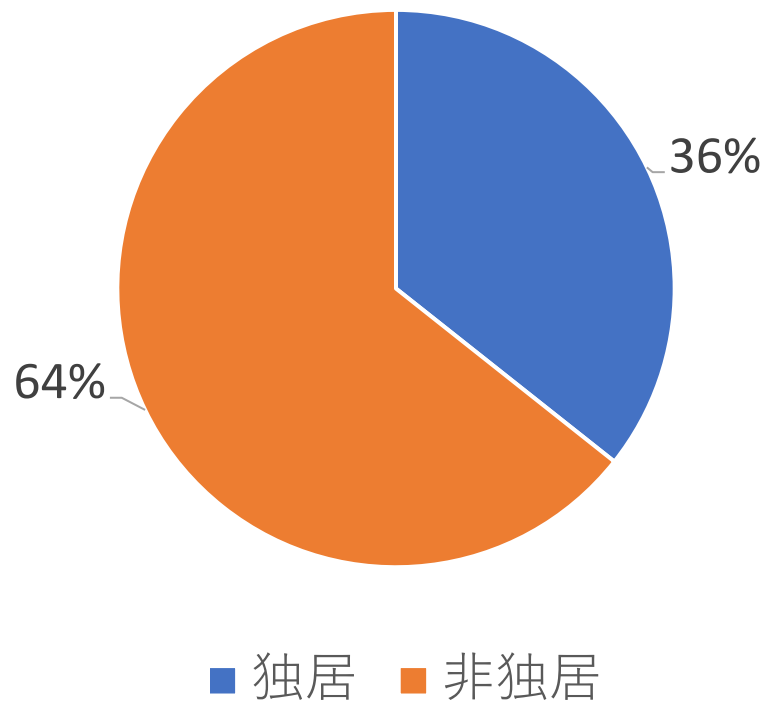


年代×性別 N=52

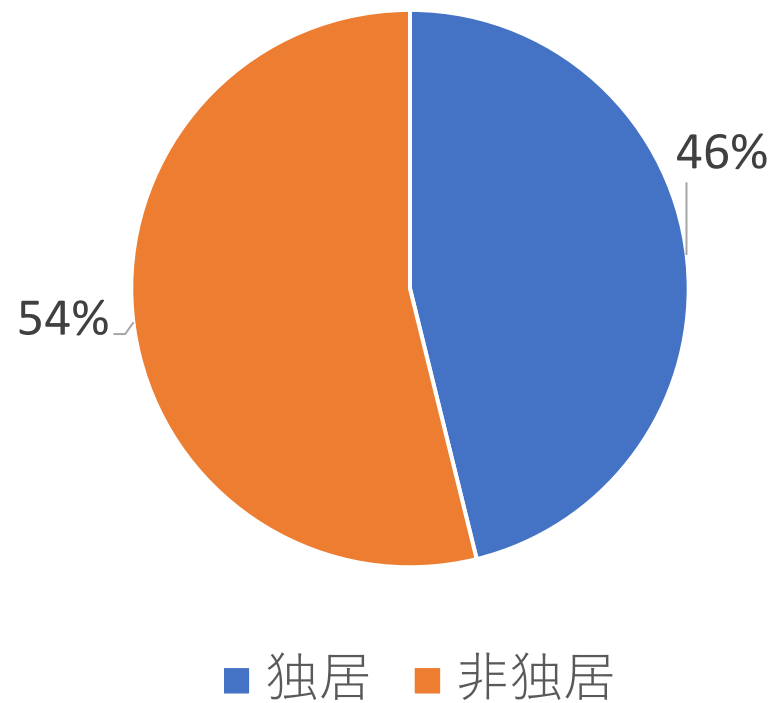


独居の割合

若年者 独居の割合 N = 143

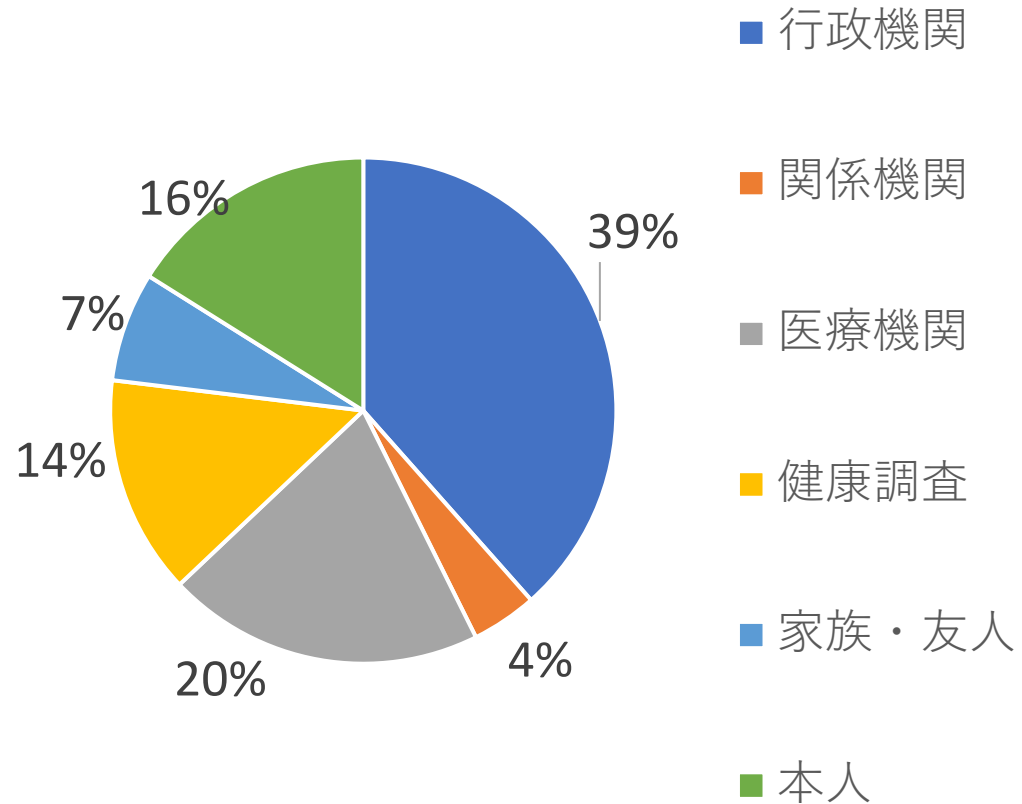


高齢者 独居の割合 N = 52

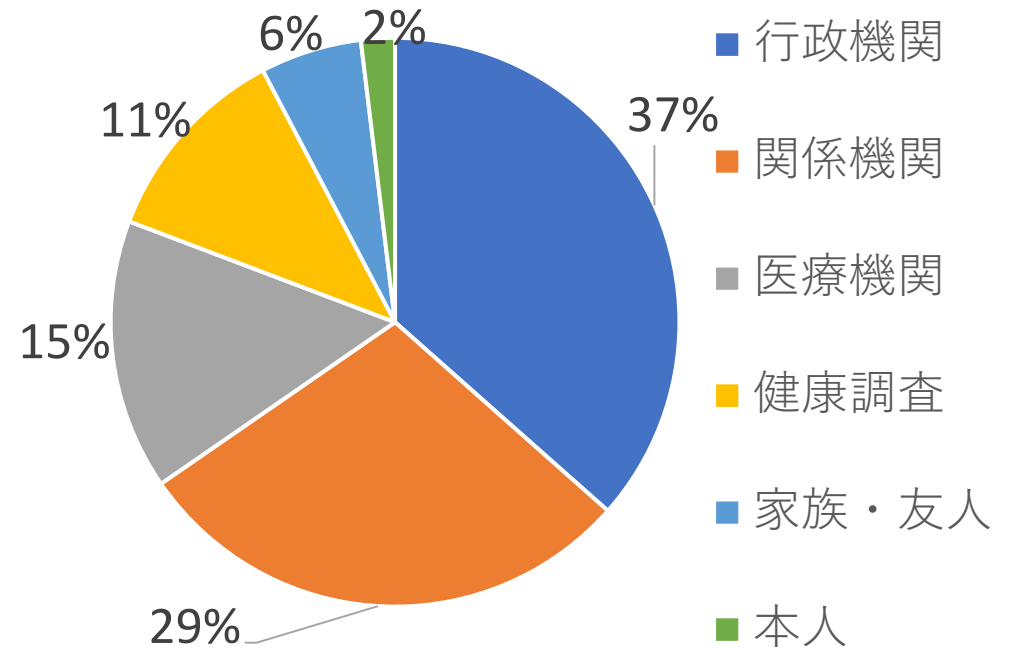


相談経路

若年者 相談経路 (N=143)

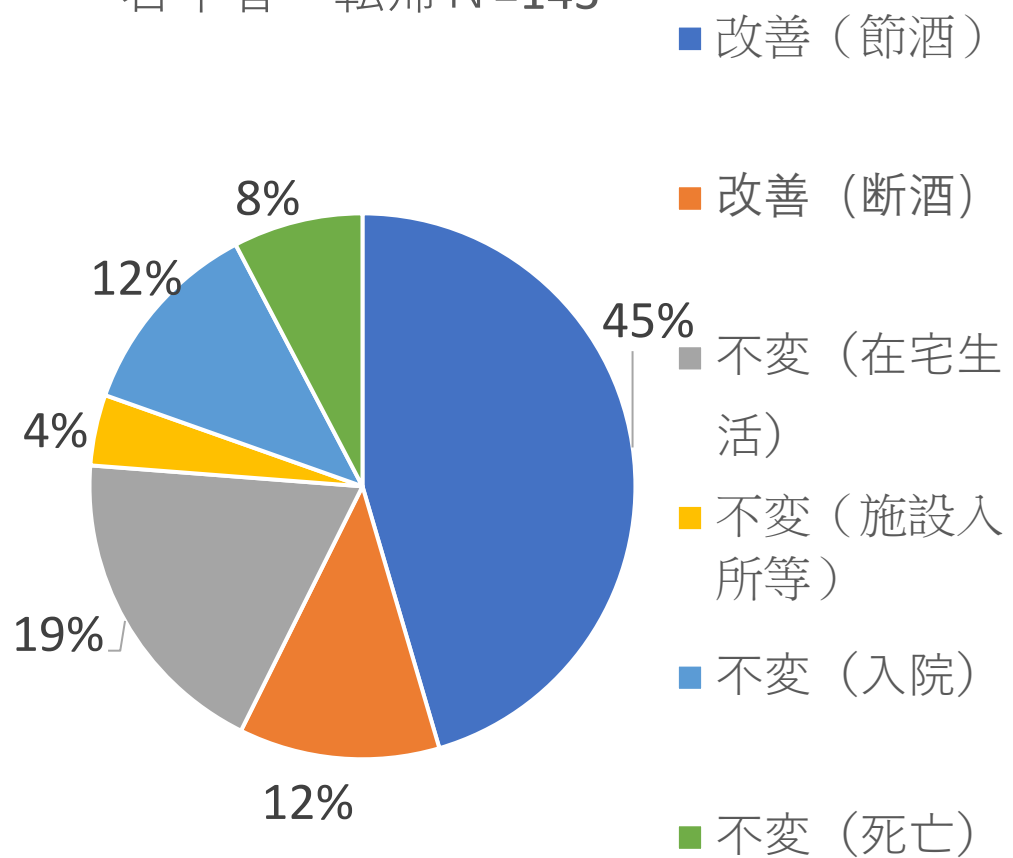


高齢者相談経路 (N=52)

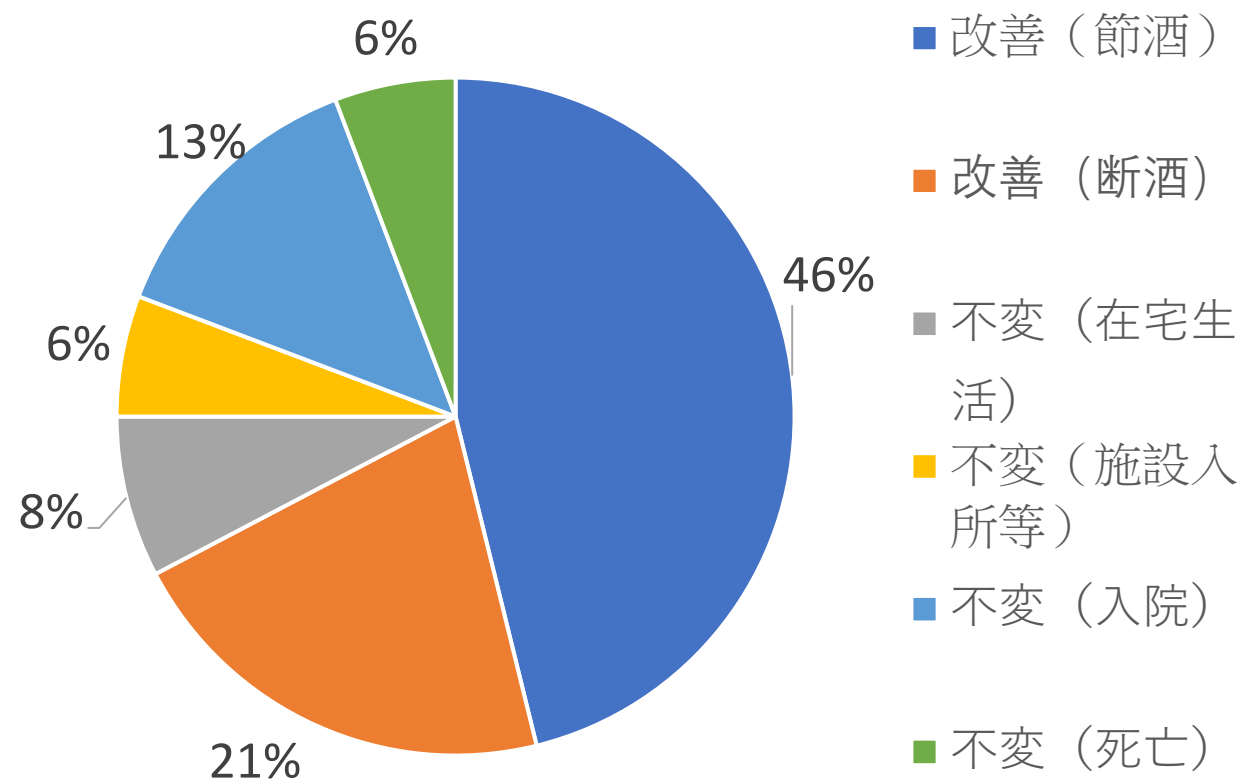


転帰

若年者 転帰 N=143



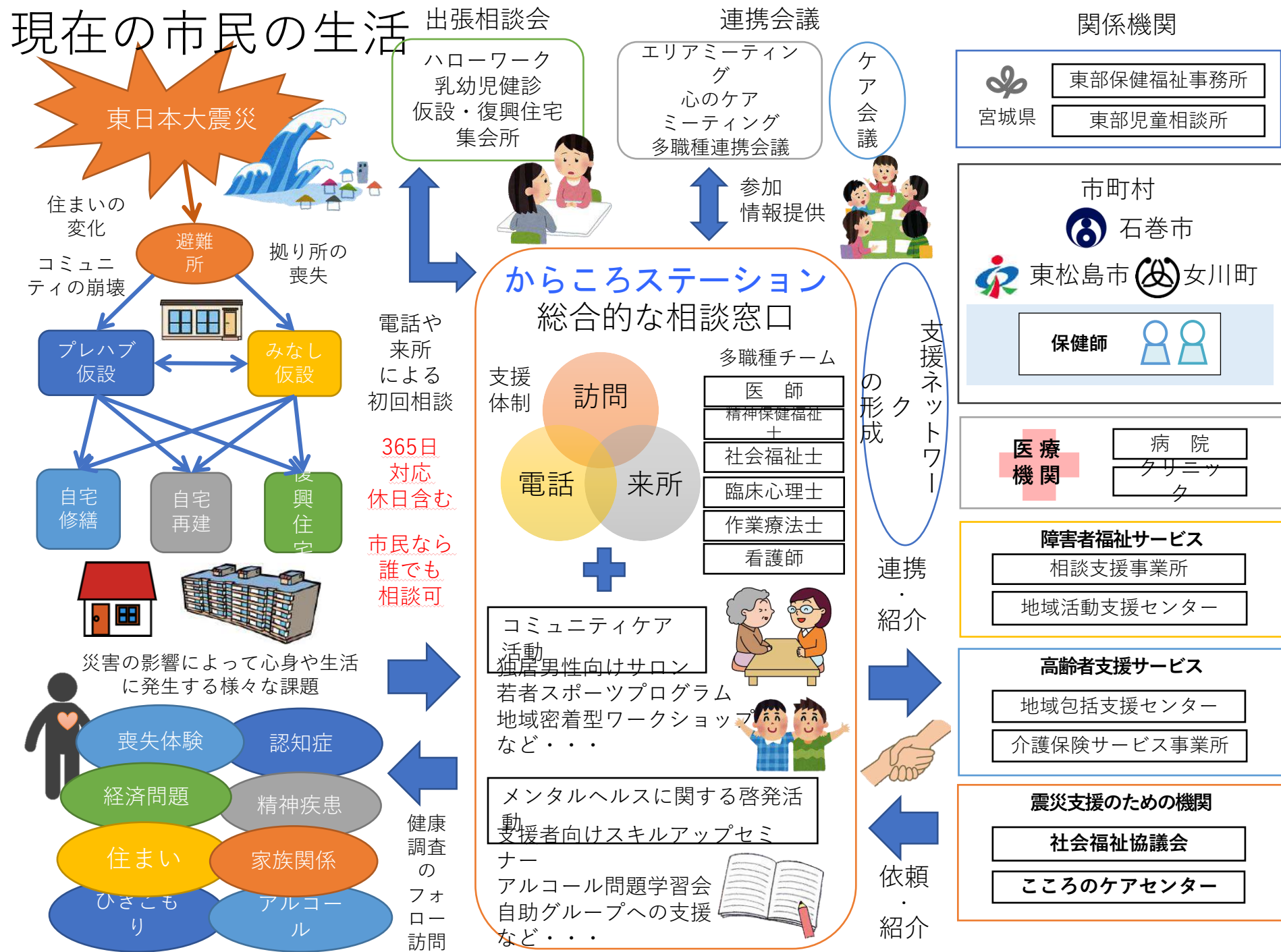
高齢者転帰N=52



地域住民から見たからころステーション

- 365日対応している
- 訪問、通所、電話による相談が出来る
- 精神科医、、看護師、心理士、作業療法士、精神保健福祉士、社会福祉士など専門職が相談にのってくれる
- 介護保険、障害福祉サービスなどの認定がなくても利用できる
- 精神保健の相談だけでなく、生活の相談もできる
- 障害年金や障害手帳などの手続きをサポートしてくれる
- 通院、入院や受診時の主治医との対応もサポートしてくれる
- 携帯電話やネット、金銭管理などの生活を支援してくれる
- おじころ、KCRP、カラーノなどのグループ活動に参加できる
- スキルアップセミナーなど啓発活動に参加できる
- サロン活動をサポートしてくれる

現在の市民の生活



発災前

- ・ 平時の精神保健活動での関係性が大切
- ・ 顔の見える関係
- ・ 重層的関係：ネットワーク、日精診、デイケア学会、職能団体などとの関係

循環型支援の確立

直後 避難所

- ・ 自力で活動できる体制、支援者が被災者である場合がある
- ・ 平時の関係を生かした支援
- ・ 受援者への十分な配慮が必要、受援者自身が被災者である

カフェ活動、講演会、電話相談、訪問活動、来所相談

仮設住宅 生活再建

- ・ 地域での問題の顕在化：アルコール問題、認知症の問題、精神疾患を持つ方への支援
- ・ 精神保健・医療・福祉における専門的関与が必要となる
- ・ 地域の精神保健・医療・福祉の脆弱性が明らかになる

オジころ、KCARP、アルコール研究会、KARANO（引きこもりの方の支援）

住宅再建

- ・ 平時の精神保健・医療・福祉体制への移行期
- ・ 絶対的な人材不足
- ・ 支援者から新たなシステムを構築する主体への転換

からころステーションでは、日本精神神経科診療所協会から発災以来、精神科医、コワーカーを定期的に派遣していただいている。毎年延べ360名以上の精神科医と述べ200名以上のコワーカーが支援活動に従事している。

新型コロナ感染症の影響

- 集団活動の制限
 - 県外支援医師の派遣中止
 - 施設内感染対策
 - 感染症対策をとっての訪問支援
-
- 現在の活動状況
 - 県内医師を中心にした活動
 - リモートでの支援活動の開始（県外医師による）
 - リモート面接、ケース会議、リモート講演会など
 - 感染症対策を行ったうえでの集団活動の再開
 - おじころ、KCRP、カラーノ
 - スキルアップセミナー、アルコール研究会の再開
 - サロン活動の再開

連携への取り組み

- 内科医・精神科医との連携
- アルコール問題研究会
- 石巻市ケアミーティングの継続
- アルコーリック・アノニマス、断酒会など自助グループとの連携
- 各エリアミーティングへの参加
- ネットワーク会議への参加
- 支援者支援の講演会の継続



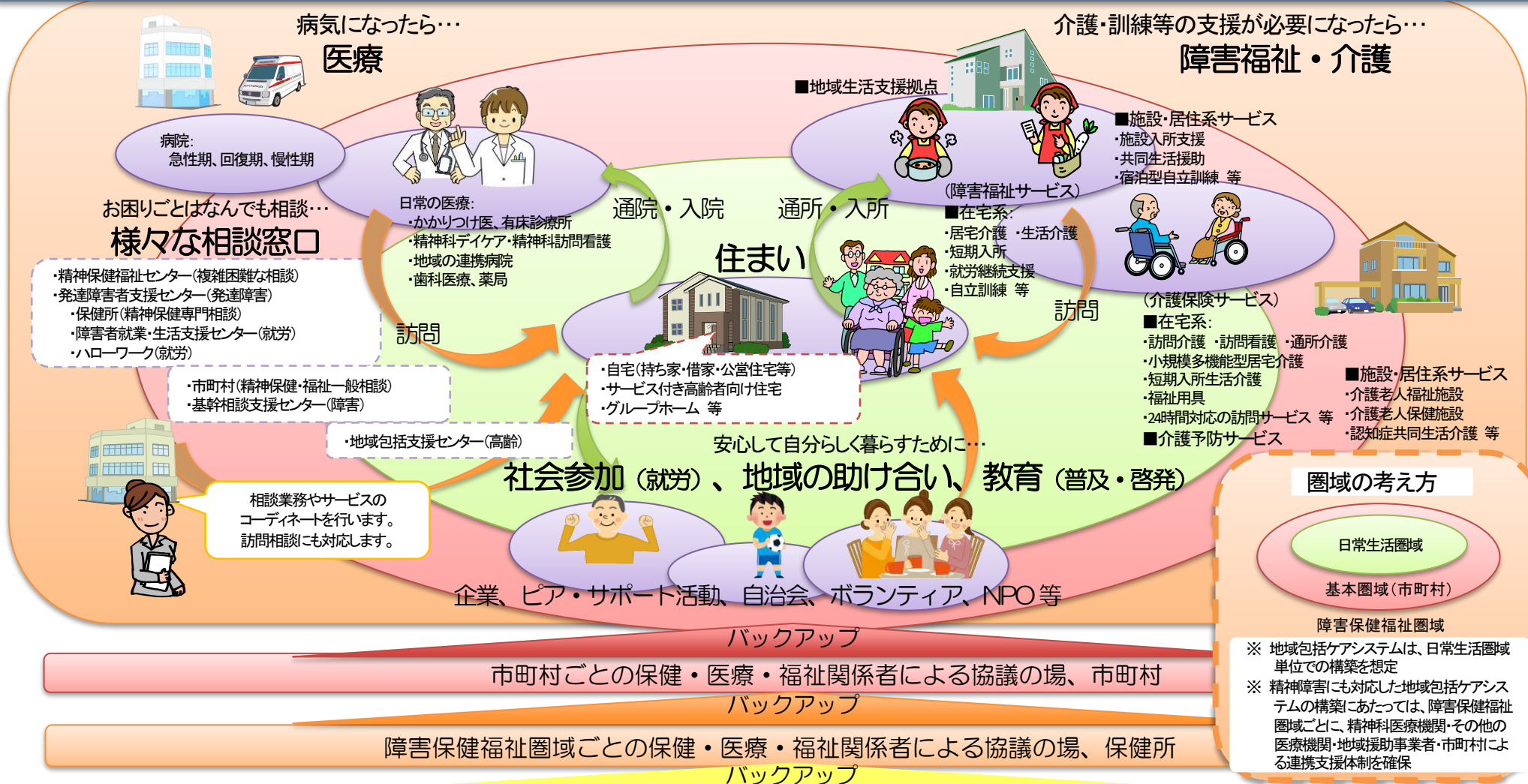
- 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムへの積極的参画

新たなメンタルヘルスネットワーク

- アルコール問題の増加
- 認知症の悪化への対処
- 高齢者の幻覚妄想状態の増加
- 精神疾患の再発予防
- 身体疾患を抱える方の相談
- 震災によるストレス増加と健康障害の予防
- 自死予防
- 不登校の増加への対応
- 発達障害を持つ方への対応

精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築（イメージ）

- 精神障害者が、地域の一員として安心して自分らしい暮らしをすることができるよう、医療、障害福祉・介護、住まい、社会参加（就労）、地域の助け合い、教育が包括的に確保された地域包括ケアシステムの構築を目指す必要がある。
- このような精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築にあたっては、計画的に地域の基盤を整備するとともに、市町村や障害福祉・介護事業者が、精神障害の程度によらず地域生活に関する相談に対応できるように、圏域ごとの保健・医療・福祉関係者による協議の場を通じて、精神科医療機関、その他の医療機関、地域援助事業者、市町村などとの重層的な連携による支援体制を構築していくことが必要。



① 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築推進事業（地域生活支援促進事業（※））

※地域生活支援事業に含まれる事業やその他の補助事業のうち、国として促進すべき事業について、「地域生活支援促進事業」として特別枠に位置付け、5割等の補助率を確保し、質の高い事業実施を図るもの。

- 障害保健福祉圏域ごとの保健・医療・福祉関係者による協議の場を通じて、精神科病院等の医療機関、地域援助事業者、自治体担当部局等の関係者間の顔の見える関係を構築し、地域の課題を共有化した上で、包括ケアシステムの構築に資する取組を推進する。

＜実施主体＞ 都道府県・指定都市・特別区・保健所設置市

【事業内容】（1は必須、2～11は地域の実情に合わせて選択実施）

1. 保健・医療・福祉関係者による協議の場の設置
2. 普及啓発に係る事業（※令和元年度新規）
3. 精神障害者の家族支援に係る事業
4. 精神障害者の住まいの確保支援に係る事業
5. ピアサポートの活用に係る事業
6. アウトリーチ支援に係る事業
7. 措置入院者及び緊急措置入院者の退院後の医療等の継続支援に係る事業
8. 精神障害者の地域移行関係職員に対する研修に係る事業
9. 入院中の精神障害者の地域移行に係る事業
10. 包括ケアシステムの構築状況の評価に係る事業
11. その他、包括ケアシステムの構築に資する事業

令和元年度からの新規事業メニュー

2. 普及啓発に係る事業

→ 精神障害者に対する地域住民の理解促進を目的としたシンポジウム等の事業を各自治体の実情に応じて実施

【平成29年度】実施自治体 14

【平成30年度】実施自治体 49

【令和元年度】実施自治体 71（予定）

からころステーションの今後

現在の委託事業を確保しながら
相談支援事業所
障害サービス事業
訪問看護ステーションなどの運営



災害の影響によって心身や生活に発生する様々な課題

喪失体験

認知症

経済問題

精神疾患

住まい

家族関係

ひきこもり

アルコール

出張相談会

ハローワーク
乳幼児健診
仮設・復興住宅
集会所

連携会議

エリアミーティング
心のケア
ミーティング
多職種連携会議

ケア会議

参加
情報提供

からころステーション 総合的な相談窓口

支援
体制

訪問

電話

来所

多職種チーム

医師

精神保健福祉士

社会福祉士

臨床心理士

作業療法士

看護師

コミュニティケア活動

独居男性向けサロン
若者スポーツプログラム
地域密着型ワークショップ
など...

メンタルヘルスに関する啓発活動

支援者向けスキルアップセミナー
アルコール問題学習会
自助グループへの支援
など...

電話や
来所
による
初回相談

365日
対応
休日含む

市民なら
誰でも
相談可

健康
調査
の
フォロー
訪問

支援
ネットワー
クの
形成

連携・
紹介

依頼・
紹介

関係機関



東部保健福祉事務所

東部児童相談所

市町村



石巻市



東松島市



女川町

保健師



医療
機関

病院

クリニック

障害者福祉サービス

相談支援事業所

地域活動支援センター

高齢者支援サービス

地域包括支援センター

介護保険サービス事業所

震災支援のための機関

社会福祉協議会

こころのケアセンター

ご清聴ありがとうございました